

陸平通信

OKADAIRA 2022年6月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター (陸平研究所)
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 110号



コロナ禍でも体験で 心いやされる!

縄文体験の日にて

梅朝基礎落語

好文亭梅朝さんの落語で
楽しいひとときを!

- ◆日にち 6月5日(日)
- ◆開演 午後1時30分から
- ◆場所 文化財センター
- ◆定員 20名(要申込)

※当日、席に余裕がある場合参加可能。お問合せください。



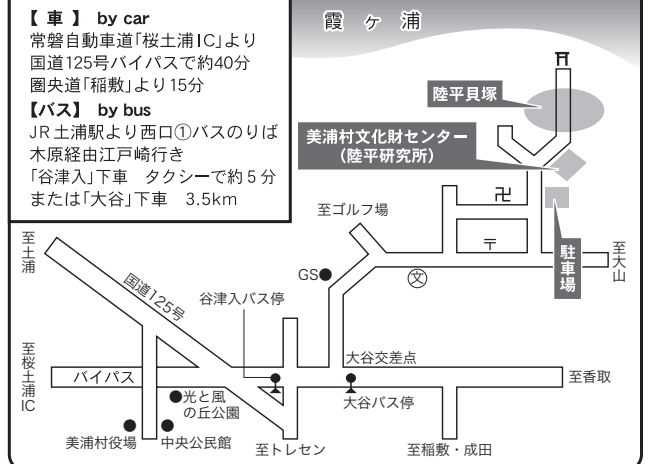
陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car

常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分

【バス】 by bus

JR土浦駅より西口①バスのりば
木原経由江戸崎行き
「谷津入」下車 タクシーで約5分
または「大谷」下車 3.5km



田植え終わればあと百日の秋の実りが又楽し (日和吟社俚謡集より)

ゴールデンウィークに縄文体験の日 開催！



▲土器づくり



▲縄文クッキーづくり

村内のあちこちで田植えの風景がみられた4月29日（金）～30日（土）の2日間、文化財センターでは体験イベント「縄文体験の日」を開催しました。

新型コロナの感染拡大予防のため、体験は事前申し込みとし、さらに定員を制限しておこないました。

29日はあいにくの雨模様でしたが、参加者は作りたい土器を見本にして自分のペースで楽しそうに作っている様子でした。まが玉作りも自分の望む形

を目指して一生懸命に石を紙ヤスリでこすり、完成させていました。一方、30日は一日天気に恵まれ、さわやかな五月晴れのなかで体験を楽しんでいる様子うかがえました。縄文クッキーは、自分でどんぐりを粉にして形を作ってクッキーを焼き上げ、どんぐりを使った時計やカレンダーはアイデアと工夫でほかにはない素敵なオリジナルのものを完成させていました。



▲どんぐりで時計とカレンダー作成中



▲どんぐり時計完成！



▲土器づくり



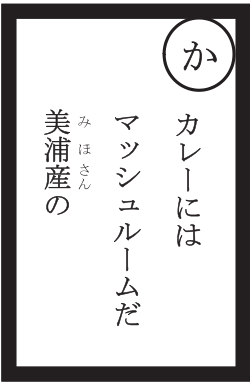
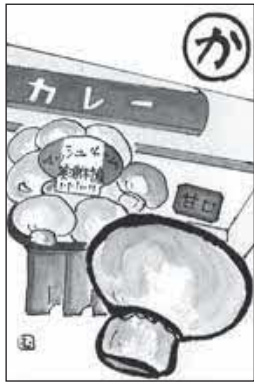
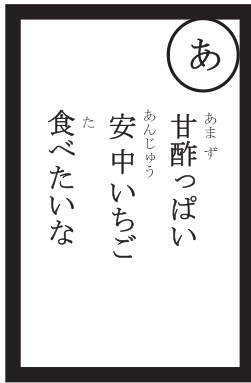
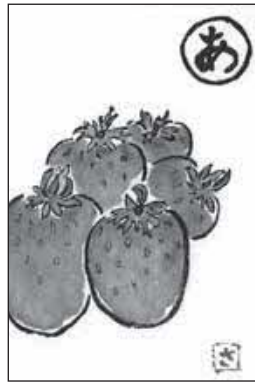
▲まが玉づくり



▲体験の様子

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は「あ」「か」「す」「ふ」

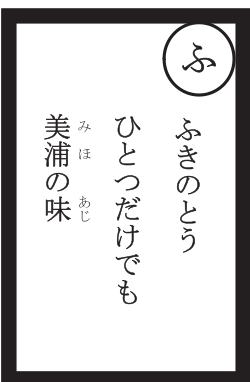
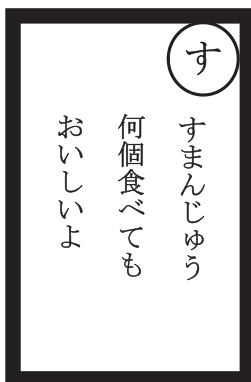
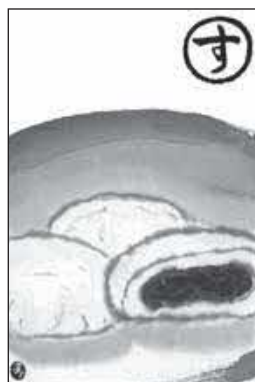


あます 甘酸っぱい
あんじゅう 安中いちご
か カレーには マッシュルームだ
すまんじゅう すまんじゅう 何個食べても おいしいよ
ふきのとう ふきのみ ひとつだけでも 美浦の味

美浦かるたには村の美味しい食べ物ごとりがけられています。
なかでも「すまんじゅう(酒まんじゅう)」は、昔から親しまれている美浦村地域の身近なお茶菓子といえます。しかも5月中旬から11月に作られる季節商品です。見た目は素朴な感じですが、麴を発酵させて2日ばかりで作る手間のかかるまんじゅうです。店により皮や餡に特徴があり、好みのすまんじゅうも人それぞれにあるようです。すまんじゅうは一度に沢山求める人が多く、よく店先ですまんじゅうの包みを見かけたものでした。農作業時の一服に、また地域の集まりのお茶菓子や土産に、「すまんじゅう」は好まれてきました。かつては村内に何軒もすまんじゅうを作っていた店がありましたが近年はかなり少なくなっていました。美浦に隣接する江戸崎や阿見にすまんじゅうを主にした店がな

ぜかありません。すまんじゅうは美浦の特産品のひとつといえます。
「うちご」といえば安中いちご。安中地区で生産され直売所でもすぐに売り切れてしまうほどの人気です。マッシュルームはJRA美浦トレーニング・センターの敷き藁をたい肥化して利用することで知られています。ふきのとうは春先に村内あちこちで見られますが、案外気がつかず、フキの葉が開いてはじめて気がついたりすることが多いかもしれません。

「美浦かるた」は、共に輝くみほの会(美浦村女性行政推進協議会)が制作した美浦村の魅力を紹介したかるたです。美浦かるたは美浦村HPでみることが出来ます。
子育て・教育→図書室→美浦かるた で検索！
<https://www.vill.miho.lg.jp/page/page001902.html>



ミニ企画展示



陸平遺跡群

きのねだいせき うちでいせき
木の根田遺跡・内出遺跡の研究

開催中



美浦村文化財センター

◆開館時間：9時～17時

◆休館日：月曜・祝日（祝日が月曜と重なる時は翌日も）